

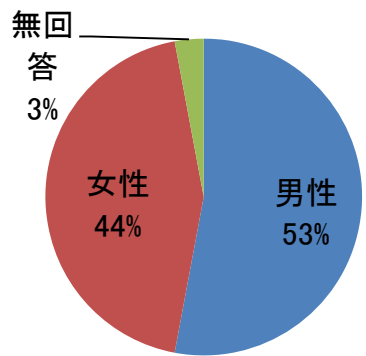
JAXA タウンミーティング in 盛岡 開催報告

平成 26 年 10 月 5 日、盛岡市教育委員会及び盛岡市のご協力により、JAXA タウンミーティング in 盛岡 “宇宙・イーハトーブ・未来” を開催しました。今回は、JAXA が取り組んでいる X 線天文衛星「ASTRO-H」と、人工衛星による地球観測データのさまざまな利用についての話題をお伝えし、参加者の皆さまと活発な意見交換がなされました。

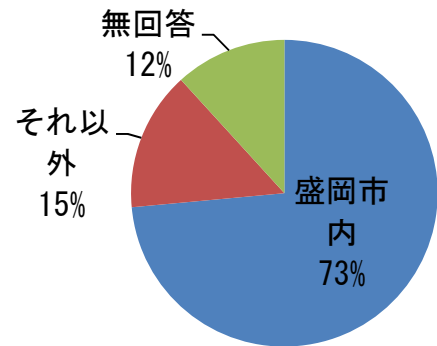
- 開催日時 平成 26 年 10 月 5 日（日） 13:30～16:00
- 会場 盛岡市都南公民館 1 階 小ホール
- 参加者数 38 人
- 登壇者
 - ・第一部：高橋 忠幸 JAXA 宇宙科学研究所 ASTRO-H プロジェクトマネージャ
「X 線で探る極限宇宙～いざ ASTRO-H 衛星へ～」
 - ・第二部：岩本 裕之 JAXA 第一衛星利用ミッション本部 衛星利用推進センター
ミッション企画室長
「地球観測データの様々な利用について～農業からアートまで～」
- 進行コーディネーター
JAXA 広報部 企画・普及グループ長 名村 栄次郎

アンケート回答者の属性（有効回答数：34）

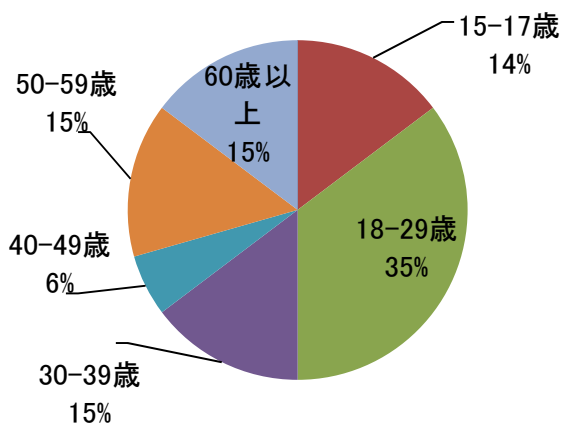
1. 性別



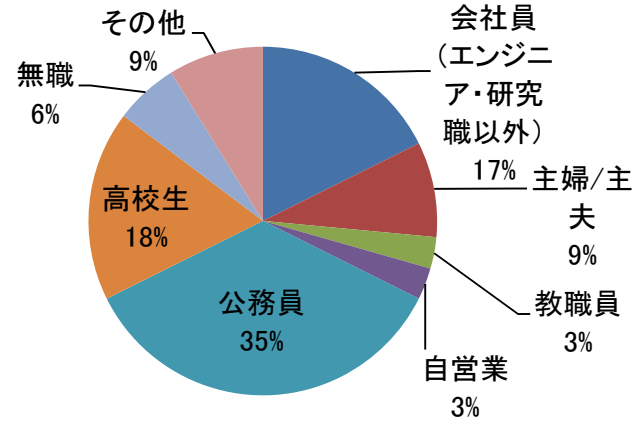
2. 居住地



3. 年齢



4. 職業



当日出た主なご意見（意見投稿、アンケート記入分も含む）

「X線で探る極限宇宙～いざ ASTRO-H 衛星へ～」

- ・ 地球上のみの研究で解決が難しい問題を地球の外から客観的に見ることで解決につながることもあると思う。
- ・ 質問に対する回答がとても明確で興味が持てた。
- ・ 難しい部分が多かった。
- ・ 「ASTRO-H」にたくさんの大学が関わっていると知り、私も一緒に研究したいと思った。
- ・ 宇宙調査のためのガンマ線検出器を原発事故後の除染に役立てたように、還元できる先進技術があると万が一の時にもすぐに対応できると思う。
- ・ この分野で日本がリードしていることを初めて知った。技術が天文観測以外にも利用されていることを知り関心が高まった。
- ・ 日本の宇宙開発技術が世界に負けていないことを知り興味がわいた。

「地球観測データの様々な利用について～農業からアートまで～」

- ・ 温暖化対策として JAXA 職員が率先して公共機関を使うなど取組をしてほしい。
- ・ 人工衛星を使って雲を流すなど、天気をコントロールするために利用できないか。
- ・ 人工衛星が漁業や農業にも使い手があると知らなかった。
- ・ 衛星データによる二酸化炭素の分布情報などを見て、もっと情報を公開してほしいと思った。
- ・ 高速道路の混み具合などが目で見られるようになると便利だと思った。
- ・ 宇宙に関する研究が、身近なことに役立っていることを知り驚いた。
- ・ 衛星の活用方法についてもっと広く意見を求め、情報提供してもっと発信していくべき。

タウンミーティング、その他について

- ・ 学校の先生方の研修会や、子どもたちにも今日のような話を聞かせてもらえる機会を増やしてほしい。
- ・ 活動内容を今回のような会でもっと知っていただけるように、イベントや本などで広めてほしい。
- ・ 決して堅くて難しい、ある意味レアな分野ではないことをもっと理解してもらうべき。
- ・ 新聞社や地元のテレビ局に連絡し地元のメディアを通して情報を広げてほしい。
- ・ 日本独自では限界があるため、基礎研究の予算を確保しながらビジネス利用等で外貨を稼げるような産業とすべき。
- ・ 対話方式がとてもよかった。
- ・ 技術の開発は徹底してやらないと先へ行けないと思う。
- ・ 宇宙について今までより身近に感じたが、まだまだ分からないことが多い。今回参加して興味がわいたので、また機会があれば参加したい。
- ・ 関連イベント等と併せて開催してほしい。
- ・ 高校生が JAXA の皆さんの話を聞く機会が広がればリニアコライダーへの関心も広がると思う。地方は情報が届きにくい現状があるのでこのような活動を続けてほしい。

